

学内の感染対策に関する基本的事項

【セルフプロテクションとは】

○各自が常時不織布マスクを正しく着用すること(鼻から顎まで覆う状態)

※[参考]サージカルマスク規格

箱などに記載のマスク性能表示として、BFE(細菌ろ過効率) $\geq 95\%$ 及びPFE(微粒子ろ過効率) $\geq 95\%$ を確認

○アルコール消毒液(濃度 70%以上)を使用し、何かに触れる前、触れた後に手指消毒を行うこと ※アルコール消毒液を入れた携帯用マイボトル携行を推奨

以上の2点を徹底することで、自らを感染から守り、家族や友人を感染から守ることも繋がります。マスクを着用して公共交通機関をご利用頂ければ、感染者と 1m 以内の距離に乗り合わせたとしても、二次感染リスクは 0.1%(→1000回に 1 回の頻度)よりもさらに低減化されます。また、不織布マスクを正しく着用していれば、仮に見知らぬ感染者の隣に着席しても、濃厚接触者には該当しません。

以上が、セルフプロテクションの基本的な考え方となりますが、日々の健康管理等に関する事項はあらためてご連絡いたします。

【入構時の対応】

○不織布マスクの正しい着用(鼻柱から下顎までを覆い、マスクの上端を頬に密着させること)

【入構後の対応】

○感染症発症時の入構者確認のため、カードリーダーでの学生証認証を実施

⇒授業出席時、教務・学生担当窓口、就職室、学習支援室、図書館、食堂等

○三密の回避(密閉、密集、密接の状態が同時に発生すること)

○建物内の定期清掃を実施(トイレ等の共有部分の消毒・清掃)

【学科棟・各建屋の対応】

○建物の入口に非接触体温計を設置して、体温測定を実施

○建屋入口、エレベーターホールに消毒液を配置

○各事務室窓口にパーテーション及び消毒液を設置

【講義室・実験室等の対応】

- 入構制限措置対応表における各STAGEに応じた収容制限の範囲内で授業を実施
- 教室等の窓や扉を開けて、定期的な換気を実施
(CO2濃度センサーで換気状況を確認)
- サーキュレーターや扇風機設置による換気効率の向上
- 授業特性に合わせたアクリル板の設置

【食堂の対応】

- 消毒液の設置及び非接触体温計を設置して体温測定を実施
- 座席にパーテーションを設置
- 黙飲食等の喚起掲示
- 教室の一部を食事場所として開放

【メディアセンター(図書館・情報教育センター)の対応】

施設開放時間(平 日)8:45～20:00
(土曜日)8:45～17:00

【就職室の対応】

施設利用:可 (平日)9:00～17:00
相談:原則事前予約制、Zoom面談+対面

【その他】

- 研究活動は、入構制限措置対応表における各STAGEに応じて対応
- 一般部外者の入構は引き続き制限

なお本学では、新型コロナウイルス接触確認無料アプリ「COCOA」をインストールし、活用することを要請します。

厚生労働省ホームページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html

以上